# カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

**８月１１日号**

令和７年　８月１１日

校長　小堺 広司


学校教育目標
「やさしく
　　かしこく
　　たくましく」
～世界の架け橋となる子どもたちの育成を願って～

## ２学期が始まりました。新しい１歩を踏み出しましょう！

### ～ いのちを大切に、生かされていることに感謝して、前向きに過ごしましょう ～

７月１２日から始まった２６日間の冬休みが終わり、２学期が始まりました。

冬休みだからこその学習や体験はできましたか？また、しっかり体を休めることができましたか？それらを活力として、２学期への新たな一歩が踏み出せると良いですね。

２学期は、宿泊教室、連邦大交流、小学部1.2年遠足・オープンデー、文化祭など、体験的な行事がたくさんあります。与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら意見を持って、積極的に良くしていこうと考えることが大切です。また、行事に参加する外部の方々やブラジル人の学生さんたちと、自分から話しかけようとする意識が求められます。「やってみよう」という強い意志を持ち、自分への新しい挑戦と思って交流しましょう。

学習では、しっかり話を聞き、自ら課題に取り組み、自分の意見を発表して、基礎基本を身に付けましょう。特に小学部６年生・中学部３年生の仲間たちは、進学について、準備の時期となります。計画的に対策を立て、自らを律して自分に必要な学習をしなければなりません。新しい扉を開くために、努力を積み重ねていきましょう。

「リオ日学ファミリー」の合言葉のもと、１２人の仲間たちがひとつになって、仲間を思いやり、お互いに声をかけ合いながら大きく成長しましょう。自分一人では成し得ないリオ日学ならではの貴重な経験が、必ずこの先の人生の大きな支えとなります。この出会いに感謝して、「前向き・積極・肯定」を合言葉に、新しい１歩を踏み出しましょう。

＜保護者の皆様へ＞

２学期が始まり、新しい生活でご心配なことがございましたら、担任をはじめ、学校の職員だれにでも、お気兼ねなくご相談ください。

### ○始業式校長講話（８月７日）より

日本は、原爆の日・終戦の日・お盆など、亡くなった方の魂を悼む文化があります。お盆は亡くなった方の魂が私たちのそばにやってくると信じられ、私の父もこの季節に亡くなり、大切にしています。また、今年は戦後８０年の節目の年で、私たちはいのちを考える良い機会です。

夏が来るたびに、父の運命に支えられ、この世にいのちを授けてもらったおかげで、こうして皆さんと出会い、同じ時を刻める幸せを感じます。この写真は父が学徒出陣の時撮ったものです。昔は出征を祝い記念に写真を撮ったのです。写真館で軍服を着て写真を撮る気持ちはどんなものであったと思いますか？戦争の記録を綴った「軍歴証明書」という文書が厚生労働省社会援護局という所に保管されています。今は亡き父の声を聞くことはできませんが、そこに記された戦争の記憶を振り返ってみましょう。１８歳で学徒出陣し、横須賀海兵団に入隊して機関銃を撃つことや機雷を沈める方法を学び、１年後、海防艦に乗って戦地へ出港します。父から戦争の話を聞くことはあまりなかったのですが、太平洋戦争の授業をするため聞き取った時の文章を読みます。「昭和２０年２月、シンガポール沖で１万トンの石油タンカーを護衛したとき、アメリカの潜水艦から発射された魚雷が命中し、午前２時の真っ暗な海が昼のように明るくなって、長さ１００メートルのタンカーから乗組員が次々と海に飛び込むが、燃える石油でみんな亡くなっていくのを眺めるしかなかった」。「昭和２０年４月、上海沖でアメリカ軍機マーチンの攻撃を受ける。敵の照明弾が落下傘を付けてゆっくり落ち、マグネシウム光が昼のように明るくする。潜水艦を沈めるため船尾の機雷付近にいたが、艦長が『お前は若いから、阿部兵曹長（３２歳妻子持）を船尾に、かわりに船の前方で機関銃を撃て。』と命じた。この日に限って敵の爆弾が阿部兵曹長の頭に命中し、それがクッションとなって破裂することなく爆弾は海へ落ちていった。もし破裂していたら機雷に引火し、確実に海防艦は爆発するところだった。」

日本の暦では立秋・秋の気配を感じる季節です。日本からサルスベリ・ノウゼンカズラ・カサブランカの画像を送ってもらいました。サルスベリは、亡き父の葬儀の後、見上げた青空に咲いていた赤い花です。主を亡くした実家に咲くノウゼンカズラの朱色が風に揺れていました。母の愛していたカサブランカを庭に植え、花弁に鼻を近づけ芳香を楽しみます。傍らに咲く花の記憶が、亡くなった魂を近くに蘇らせます。

家族と共に過ごした記憶が心を支えるお守りとなり、生きる勇気を与えてくれます。父のむくんだ足を何度もマッサージしたツボ押し棒。母の病室に、当時小学３年生だった三女が「いつもそばにいるからね」と枕元に置いたサン宝石のガラス玉。コロナ禍、家族を支えて自らがんの病魔と闘い、虹の橋を渡った愛犬クロのお守り。いつもポケットに入れて、手に触れ「お守りください」と念じます。魂を悼み、生かされていることに感謝し、いのちの大切さを感じることができます。

戦後８０年の節目に、魂を悼み、生かされていることに感謝して、前向きに自分の人生を歩んでいきたいと思います。リオ日学に通い、仲間と出会い、笑って、泣いて、怒って、たくさんの経験ができます。うれしいこと、悲しいこと、悔しいこともありますが、いのちあってこその人生、生きていればこそ味わえる醍醐味です。この出会いに感謝して、２学期を楽しく過ごしましょう。